

各位

**米・ニューヨークフェスティバルで  
「情熱大陸 書家 金澤翔子」(英語版)が銅賞**

2020年のニューヨークフェスティバルにおいて、当社が制作・放送した番組「情熱大陸 書家 金澤翔子」(英語版：PASSIONATE PEOPLE - SHOKO KANAZAWA, CALLIGRAPHER) がドキュメンタリー：BIOGRAPHY/PROFILES 部門で銅賞を受賞しました。

1957年に始まったニューヨークフェスティバルは、娯楽、ドキュメンタリー、ニュースなどのテレビ番組から、ラジオ、広告、マーケティング等を含めた総合メディアコンテストで、今年は50か国を超える国と地域からの出品がありました。授賞式は例年、アメリカ・ラスベガスで開かれますが、今年はコロナウイルスの感染拡大により中止となりました。受賞作品の概要は下記の通りです。

## 記

「情熱大陸 書家 金澤翔子」 2019年5月5日(日)放送  
(英語版：PASSIONATE PEOPLE - SHOKO KANAZAWA, CALLIGRAPHER)

チーフプロデューサー： 越智 暁	プロデューサー： 中村 卓也・高木 宏
演出： 望月 馨	構成： 重乃 康紀
ナレーター： 窪田 等	撮影： 水上 智重子
音効： 中嶋 尊史	編集： 宮島 亜紀
制作協力： ネットゲン	

新元号制定に伴い俄かに注目を集めている「書」の世界。今、多くの書家たちがその筆で「令和」を書き続けているが、その中でも一際異彩を放つのが金澤翔子(かなざわ・しょうこ)だ。

母の影響で5歳から書道を始め学生時代には数多くの賞を受賞。20歳で開いた初個展が評判を呼び、その後、伊勢神宮や建仁寺を始めとした名だたる神社やお寺への奉納、大河ドラマの題字など幅広い活躍を続けてきた。さらにその勢いは国内に留まらず、ニューヨーク、チェコ、シンガポール等で個展を開き、世界中から称賛を集めている33歳だ。

「ダウン症(候群)」によるハンデがありながら、その筆から生み出される書には他にないエネルギーが溢れ出しており、その力強さに涙する人も少なくない。

母の泰子さんは言う。「翔子はただみんなに喜んでほしいという思いだけで書きます。そんな純粋な魂が、見る人の胸を打ったのかもしれない」

番組では彼女の"書"が放つ不思議なエネルギーの源泉を探ろうと密着取材を開始。日々汗を流して練習に励む姿や、数々の大舞台で揮毫する一流の書家としての姿。一方で、料理とマイケルジャクソンが大好きという無邪気な横顔にもカメラを向ける。

「みんなにパワーをあげたい」が口癖の彼女の書は、なぜこんなにも見る人の心を揺さぶるパワーが宿っているのだろうか。新時代に渾身の一笔を捧げる金澤翔子の"今"を追った。(番組公式HPより)

以上

本件問い合わせ先：広報部